

## 情緒の安定

## 子どもの心の拠り所に

幼児期は身近な大人（保護者等）への信頼感を育む上で、愛着形成の大事な時期です。保護者への信頼感が基盤となり、子どもは安心して社会へ踏み出すことができます。

3歳児は、大人への依存から自立へのスタートです。できないことがたくさんあるのは当たり前です。例えば、自分で靴下が履けた時、「〇〇ちゃん、靴下が自分で履けるようになったのね。さすがだね。」といった言葉掛けが、子どもの自立しようとする心を育みます。

保護者が子どもの何よりの心の拠り所として、全てを受け止め「いつも見ているよ。」と安心感を与えることが大切です。

家事や仕事が忙しい、家族の面倒を見なければならないなど、家庭によって状況は様々です。「今、忙しいから後でね。」と言うことがあっても、子どもの気持ちに寄り添いしっかり受け止めて見ることが重要です。「大人に見守られている。」「大人を信頼しているんだ。」という気持ちを子どもに育んでいくことが、情緒の安定につながります。



## 幼児期の子どもたちの生活

## 園と家庭と連携し、一緒に育てていきましょう

幼児期の子どもにとって「園生活」は、豊かな生活体験を得る場です。心を動かされた体験の一つ一つが重なり合って、関連性を持ち、新たな意味や価値が生み出され、それが子どもの学びを「豊か」にします。

つまり、幼児期の子どもは夢中になって遊ぶ中で、様々なことを経験し、それらが重なり合って、豊かな学びとなるのです。そのために園では、子どもの発達や興味・関心をとらえ、夢中になって遊ぶことができる環境を整えながら、子どもがその遊びから他の子どもと楽しい園生活を送ることができるようにすることを大事にしています。



家庭においても同様に、生活の様々な場面において、子どもの心を豊かにする体験を考えていきましょう。例えば、一緒に空を見上げて雲の動きを眺める、膝の上ののせて絵本を見る、一緒に料理をするなど、子どもが心を動かす体験を大事にしましょう。

幼児期にふさわしい生活を送ることができるよう、3歳児・4歳児では何を大切にしていってらよいか、どのような体験が大切なのかを園と家庭とで共有し、子どもを取り巻く大人たちみんなで連携を図り、一緒に育てていきましょう。